

## 地域イントラネットを活用した英会話学習法の開発

取手市コンピュータ教育クラブ 田鍋 文雄

### (1) 地域イントラネット上のTV会議について

取手市内の地域イントラネットの完成により、市内の各小中学校および公民館・図書館が接続された。この最も効果的な活用法として、TV会議の活用を考えた。

従来、WEBベースで実施してきたTV会議の各システムには、画像や音声の状態に一長一短があり、使用目的によって使い分けが必要であった。しかしながら、TV会議自体がイベント的な活用しかされていなかったため、固定したシステムは必要なかった。

今回の企画では「英会話学習のためのTV会議」と目的が限定されたため、それを実現するのに最適なシステムの選定を進めている。

### (2) TV会議を活用した英会話学習の見通し

取手市内全中学校にALTが配置されたものの、実際に生徒がALTと会話できる場面は非常に限られている。そこで、TV会議を活用してのALTの有効活用を考えた。ALTの多くは、インターネットを日常的に活用しているため、この提案には非常に興味を示している。

しかしながら、ALTの数は限られているため、実際の教室での授業を担当している時間には、英語を日常的に使用している国の方にボランティアをお願いし、最寄りの公民館・図書館などの施設からTV会議での学習活動に参加してもらうことを考え、準備を進めている。

### (3) 英会話学習のための国際交流のコーディネート

取手市内の各学校はグループウェアを活用した協働学習に積極的に取り組んでいる。したがって、多くの学校との交流を経験しているところが多いので、英語でのコミュニケーションがすこしでもできるようになれば、画像等を併用しての国際交流が可能となる。その際、学習した英会話を生かせる場面が、TV会議によって作り出せる。

現在、発表者の勤務校（取手第一中学校）では、オーストラリア・ゴールドコーストの中学生（Merrimac SHS）との交流をスタートしている。時差がほとんどないため、今後TV会議をもつことも可能であろうと考えている。

### (4) 今後の課題

学校としての実践であるからには、カリキュラム上の位置づけが最も大切なことである。本年度は年度途中からの実践であったため、カリキュラム上には位置づけることができなかった。そこで、来年度は年度当初に各学校間で調整を行い、カリキュラム上の位置づけをしたい。

また、教育センターをもたない取手市では、教育用を含めて、サーバーの管理を情報広報課が行っている。しかし、今回の実験的な企画の効果検証により、管理を教育委員会に移すための実績のひとつとしたい。

予算的に恵まれていない自治体の、ごく普通の小中学校の生徒が、2005年型教室環境の恩恵を受けることができるようにするには、細かい実践の蓄積と発想が大切であると考えている。